

「録画準備は万全」

グラウンド近くそば店夫婦喜び

第91回選抜高校野球大会に出場する国士館高（福田三郎校長）の部員は、多摩市にある国士館大・多摩キャンパスのグラウンドで日々の練習に励んでいる。授業を終えた部員は、世田谷区の校舎から電車やスクールバス、自転車や乗り籠り、約1時間かけてグラウンドへ。10年ぶりの恒例のセンバツ出場に、同市内からも応援や激励の声が上がるという。

美さん(42)夫婦が切り盛りする「演習所そば」（同市豊ヶ丘4）は、グラウンドから車で5分ほど、永田昌弘監督(61)は30年以上前からこの常連で、コーチ陣と一結にお気に入りの「かき揚げそば」を食べたり、練習試合のある日は出勤を頼んだりしている。

指定席という座敷の一番奥で「昼ご飯を食べながら、熱心に野球談議をしている」と正美さん。おなかいっぱいで練習や試合に臨んでほしいという思いから、通常の1・5倍ほどの「特盛り」を振る舞っている。

センバツ出場が決まったときは夫婦で大喜びしたといい。古美さんは甲子園で永田監督が勝利インタビューを受けるときの録画準備は万全です」と話した。【川村政平】

国士館の選手たちは10日、入場行進で掲げるセンバツ旗を手にも多摩市役所を表敬訪問し、阿部裕行市長に申子園での活躍を誓った。

松室直樹主将(今年)は「練習させてもらっている多摩市への感謝と恩返し気持ちで、甲子園のプレーで表現したい」と決意表明。阿部市長は「いつも皆さんがここ（多摩市）で頑張っていることがとてもうれい。市を挙げて応援します」とエールを送り、力強い握手を交わした。【川村政平】

「多摩市を挙げて応援」
市長、選手と力強い握手

阿部裕行市長(左)と握手する松室直樹主将(中央)。多摩市役所で。

